

院内輸血監査基準

チェック項目		チェック内容・解答
説明	同意書の確認	同意書がどこにあるか提示できる
	輸血マニュアルの確認	輸血マニュアルを提示できる
準備	医師のカルテ記載があるか	カルテ記載を確認する
	血型と交差血は違うタイミングで採血しているか	なぜ違うタイミングで採血する必要があるかを説明できる ※異型輸血防止
	各施設の手順が言える	受領する際のダブルチェックをきちんと行える
	『1患者・1製剤』 病棟の冷蔵庫に保管していない 血小板の振とう・FFPの融解について知っている	4項目についてそれぞれ説明できる ①『1患者・1製剤』⇒輸血事故防止、温度管理 ②病棟の冷蔵庫に保管していない ⇒製剤間違い防止、温度管理 ③血小板⇒静置保存しておくこと血小板機能が低下する ④FFPの融解⇒破損がないことを確認し、ビニール袋に入れたまま恒温槽や融解装置を用いて30～37℃の温湯で融解
	患者氏名確認・ID・血液型	各施設の方法に沿って確認できる
	確認項目(外観、血液型、製剤の種類、製剤番号、有効期限、照射の有無、交差適合試験の結果)	確認項目が言える 外観⇒RBC 溶血(本体バッグとセグメントの色調比較) PC スワーリング 凝集・凝固物の有無、色調の変化
実施	各製剤に適応する輸血セットが言える	RBC⇒輸血セット FFP⇒輸血セット PC⇒血小板輸血セット ※輸液セットは不可
	血液製剤と患者の確認	各施設の方法に沿ってダブルチェックができる
	血液製剤接続方法	原則単独ラインで実施 生食のみ使用可能 メインを止めて前後生食フラッシュ
	輸血実施速度	ゆっくり開始⇒開始5分 1ml/m⇒開始15分 5ml/m 最初の5分は患者のベッドサイドで観察する 医師の指示がある場合は、医師の指示に従う
	観察 (観察のタイミング・観察項目)	タイミング：輸血前、5分後、15分後、終了時 観察項目：体温・血圧・脈拍・酸素飽和度・副作用
	記録(各施設の記録方法)	バイタルサインと副作用の有無
施設	使用後の製剤バッグの取り扱い	各施設の方法が言える
	副作用の種類と対応方法	副作用の種類と対応が言える 副作用発生時：輸血を中止し、医師に報告。血管は確保したまま新しいセットに交換する。血液バッグは保管する。 TRALI：輸血関連急性肺障害(低酸素症、急性呼吸困難) TACO：輸血関連循環過負荷 (輸血の容量負荷により起こる心不全)
	副作用報告をしているか	各施設の報告先が言える
	輸血に関する疑問や質問	質問が終わってから、輸血に関する疑問や質問を聞く